
成田 達輝（ヴァイオリン）

Tatsuki Narita, Violin

ロン＝ティボー国際コンクール（2010）で第2位およびSASEM著作権協会賞受賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール（2012）にて第2位およびイザイ賞受賞。仙台国際音楽コンクール（2013）で第2位受賞。その超絶技巧と詩情豊かな音楽性に「パガニーニの再来」とフランス紙で評された。

著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。

現代作曲家とのコラボレーションも積極的に行っており、2013年サントリー芸術財団サマーフェスティバルで演奏した酒井健治作曲ヴァイオリン協奏曲《G線上で》は芥川作曲賞を受賞、S.カンブルラン指揮／読売日本交響楽団と演奏した一柳慧作曲《ヴァイオリンと三味線のための協奏曲》（世界初演）の公演は2022年度芸術祭大賞を受賞した。2022年9月には坂本龍一のプライベート録音に参加し「ソナタ」等を演奏。

海外での演奏活動も積極的に行っており、近年では、韓国平昌やミンスク、ギリシャ・イドラ島の音楽祭に参加したほか、2024年4月にはピアニスト福間洸太郎と中央アジア4ヶ所を周るツアーを行った。

使用楽器は、A.ストラディヴァリ黄金期の「Tartini」1711年製（宗次コレクションより貸与）。

（令和7年8月現在・転載禁止）